

平成 23 年度第 2 回鏡ヶ池会役員会議事録

日時：平成 23 年 9 月 16 日（金） 17:30～20:30

場所：名古屋大学東山キャンパス 工学研究科 8 号館 210 号室（社会基盤工学専攻大会議室）

出席者：宮池会長，水野(1 期)，高瀬(2 期)，南川(3 期)，大澤(4 期)，遠山(5 期)，堤(6 期)，浜嶋(8 期・関西支部)，寺島(8 期)，吉田(10 期・会計監事)，鈴木(11 期代理)，水野(12 期)，田中(13 期)，磯部(14 期)，向井(15 期)，大東(16 期)，若林(17 期・東京支部)，織田(17 期)，中野(24 期)，野田(25 期)，石川(27 期)，加藤(28 期・幹事長)，小塩(31 期・名簿)，水野(32 期)，香川(33 期)，三輪(34 期・会計)，中井(36 期・会計)，判治(37 期・しゃち)，田賀(38 期)，崔(38 期・留学生)，上田(39 期・名簿)，二井内(41 期)，後藤(46 期・学生会)，唐津(47 期代理)，館石(現教・教員幹事)

合計 35 名

■役員会に先立ち，新会長・幹事長からの挨拶および幹事自己紹介（資料 2-0）があった。

報 告

1. 平成 23 年上半期会計報告（資料 2-1） （三輪）
 - ・平成 23 年度上半期分会計報告がなされた。
 - ・自動引き落としによる会費徴収の予定，講演会/学生補助/ホームページ関連費などの出費があった。
2. 会費納入状況（資料 2-2） （中井）
 - ・9 月 1 日現在の各期納入状況一覧が説明された。
 - ・各期の納入率は 4 月とほぼ変わっていない。引き続き同期会員に会費納入をお願いしてほしい。
 - ・近年の未納率の増加について，留学生の増加や，大学院からの入学者が増加していることによるものだという指摘がなされた。
3. 新しい会費徴収制度について（資料 2-3） （中井）
 - ・学生会費の廃止，会費の単年度化と一律化，コンビニ決済の導入，プレミアム会員制度の導入や終身会員などの説明がされた。
 - ・11 月発送の名簿・しゃちと一緒に，会費徴収制度が変更されたことを会員へ周知する。
4. 後援基金報告（資料 2-4） （野田）
 - ・後援基金使用ルールの確認がなされた。講演謝金補助，学位論文印刷費補助，留学生歓迎会補助，英文ニュースレターの作成(今年から)が該当する。
 - ・会計報告が行われた。学位論文の印刷が来期であるため，残金約 131 万円は持ち越されることになった。

5. 支部活動報告
 - 1) 東京支部 (資料 2-5-1) (若林)

支部総会, 役員会, 幹事会, 支部総会の開催状況が説明された.
 - 2) 関西支部 (資料 2-5-2) (浜嶋)

役員会, 幹事会, 若手の会(未実施), 50 周年記念式への会員参加策の実施などが報告された.
 - 3) 北陸鏡ヶ池会 (資料 2-5-3) (加藤)

14 期山岸氏からの報告が紹介された.
支部化は今後の課題であり, とりあえず今年の「しゃち」で活動を報告予定.

6. 教室近況報告 (資料 2-6) (館石)
 - ・教員の着任・昇任・配置換が報告された.
 - ・平成 24 年度から, 学科名が「社会環境工学科」から「環境土木・建築工学科」に変更されることが紹介された.

7. 学生会活動報告 (資料 2-7) (後藤)
 - ・土木展, 懇親会の報告がなされた. また, ソフトボール大会が 10 月 2 日開催予定であることが報告された.
 - ・会計報告があった. 残金 82,136 円を後期予算とすることが報告された.

8. 留学生関連活動報告 (資料 2-8) (崔)
 - ・後援基金を利用し, 6 月に casual party を実施したことが報告された.
Welcome だとかたい感じがするため, casual (気軽な) とした.

9. 鏡ヶ池会総会報告 (資料 2-9) (加藤)

第 21 回総会の結果が報告された. 議案についてはいずれも特に意見なく承認された. 大きな変更は, 1 期が 3 年から 1 年となることと, 会費システムの変更.

10. 「銀しゃち」刊行報告 (資料 2-10) (加藤)
 - ・「銀しゃち」刊行までの経緯, および経費について報告された.
 - ・経費は予算では 40 万円となっていたが, 実際には約 57 万円を要した.

11. 名古屋大学土木系教室 50 周年記念事業の経過報告 (資料 2-11-1~3) (野田)
 - ・10 月 1 日の記念イベントに向けた進行状況, 当日のスケジュールが報告された.
 - ・卒業生については, シンポジウム 350 名, 交流会 250 名程度の参加を見込んでいるが, 現時点でその半分強の申込みにとどまっており, 各期幹事からの働きかけを強めてほしい. なお, 当日受付も行う.
 - ・一般の方の参加を促したいので, その呼びかけもお願いしたい.

- ・鏡ヶ池会が実施するキャンパスツアーの説明も行われた。
- ・記念事業は鏡ヶ池会も共催している。200万円を支出する（140万円は記念誌購入、60万円は交流会補助にあてる）。また、キャンパスツアー実施にも25万円を支出する予定。
- ・交流会における卒業生スピーチの候補者推薦の依頼が教室よりあったため、1期杉野氏と16期大東氏を推薦した。

12. その他

- ・2期生の同期会が10月18日開催されることが報告された。
- ・ホームカミングデイが10/15(土)開催されることが報告された。

議 事

1. 幹事・役員の変更（資料2-0） （加藤）
 - ・総会以降に、柴原尚希氏(現教, 38期)が会員担当(名簿)となった。また、6期幹事が横田憲司氏から堤博泰氏に変更となった。
2. 平成23年度第1回鏡ヶ池会役員会議事録（案）（資料2-12） （加藤）
 - ・議事録（案）が一部誤字脱字修正の上了承された。
3. 副会長について （加藤）
 - ・総会で新たに規定された副会長について、会長としては現時点では置かない方針であることが了承された。
4. 「会員名簿」No.48 編集方針（資料2-13） （上田）
 - ・名簿編集経過報告が行われ、メールによる原稿提出を呼びかけた。
 - ・10期では、定年のため連絡先変更などが多発しており情報が届いていないという問題が起こった。早急に対応する。
5. 「しゃち」No.53 編集方針（資料2-14-1・2） （判治）
 - ・「しゃち」編集・発行の作業が説明され、了承された。また、特集：東日本大震災の原稿の募集が呼びかけられた。
 - ・広告募集も行っているが、現在のところ申込みはゼロ。
 - ・発行は例年通り11月下旬を予定している。
6. 郵送方法と名簿の電子化について（資料2-15） （中井）
 - ・現在はメール便で名簿・しゃちと会費請求用取扱票を送付しているが、この方法に問題があるため、会費請求用取扱票については別便で送付する案が提示され、了承された。
 - ・今後、名簿の電子化を進める予定であることが説明された。これは会員数の増加や海外へ

の郵送増加に伴いその費用も増加しており、削減が必要であるためである。この方針について了承された。

・なお、しゃちについては電子化すべきでないという編集部での意見があったため、名簿のみ電子化する方針となっている。

7. 「銀しゃち」の今後について

(加藤)

・100部の残部をどうするかを検討し、土木50周年記念会の受付において販売し、さらに残った場合には鏡ヶ池会事務局が連絡を受けて随時販売することとした。代金は実費にあたる500円(+送料)とする。

・発行後に会費を払った人についても、事後的に配布することはせず、購入してもらうということで了承された。

・第2号刊行について議論を行った。評判は非常によく、今後も続けていってほしいという意見が多く出た。一方、編集局の負担も大きいと思われるため、やりたい方が出てこない限り刊行するべきではないとの意見も出た。また、今後継続した場合、執筆者の幅が広がるかどうかを懸念する意見や、予算オーバーについて妥当性を問う意見もあった。

・そこで、今後の「銀しゃち」編集にあたっては、「しゃち」との区別・バランスを考慮して予算等の負荷を軽減することを念頭に、編集方針を決めていく必要があることが確認された。

例えば、「しゃち」の付録として「銀しゃち」を添付するなどの案も出された。

・結論として、創刊号に続き杉野氏に編集局をお願いし、受諾いただければ企画書を出していただき、メール審議を行うこととした。

8. その他

・8期の死亡者が2名→4名となった。

以上